

ICT を活用した工事安全対策試行工事(潜水作業) 積算要領(令和8年4月改定版)

ICT を活用した工事安全対策試行工事(潜水作業)を実施する場合の積算については、以下に示す手順によるものとする。

【費用計上の考え方】

想定する工種に含まれる潜水土船及び作業船の単価表へ ICT 機器類の損料として追加する。

損料は、表5によるものとするが、その他の機材を使用する場合は見積とする。

該当する ICT 機器類については、表1及び表2を標準として費用計上を行うものとする。

トランスポンダの艀装については、表3の艀装テスト及び表4の撤去によるものとし、共通仮設費の技術管理費へ積み上げ計上する。

なお、実績日数による精査変更は行わないものとする。

【緊急時浮上用ポンベ、ダイバーカメラ、水中同時通話装置】

(表1) 潜水土船運転 単価表

潜水土船 運転 1 日当り		D 320PS 型 3~5t 吊 235kW		就業 8 時間
名称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
主 燃 料	軽 油	ℓ	152	
潜水世話役		人	$0.20 \times \beta$	
潜 水 士		人	$1 \times \beta$	
潜水連絡員		人	$1 \times \beta$	
潜水送気員		人	$1 \times \beta$	
緊急時浮上用ポンベ		日	$\alpha$	損料
ダイバーカメラ		日	$\alpha$	損料
水中同時通話装置		日	$\alpha$	損料
損 料	運 転	日	1	
〃	供 用	日	$\alpha$	

【トランスポンダ】

※起重機船(非航旋回) 鋼 D120t 吊の場合

(表2) 起重機船(非航旋回)運転 単価表

起重機船(非航旋回) 運転 1 日当り		鋼 D120t 吊		就業 8 時間
名称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
主 燃 料	重油 A	ℓ	404	運転 6h
船団長		人	$1 \times \beta$	
高級船員		人	$1 \times \beta$	
普通船員		人	$5 \times \beta$	
トランスポンダ		日	$\alpha$	損料
損 料	運 転	時間	6	
〃	供 用	日	$\alpha$	

(表3) トランスポンダ艀装テスト 代価表

トランスポンダ艀装テスト 1式当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
交通車	ライトバン 2ℓ	日	2	運 2H/就 8H
測量主任技師		人	2	
測量技師		人	2	
測量助手		人	2	
溶接工		人	1	
起重機船運転	鋼 D120t 吊	日	1	運 2H/就 8H
潜水土船運転	D 320PS 型 3~5t 吊	日	1	就業 8H
トランスポンダ		日	1	供用 1 日当り損料 × $\alpha$
雑材料		%	2	上記の

(表4) トランスポンダ撤去 代価表

トランスポンダ撤去 1式当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
交通車	ライトバン 2ℓ	日	1	運 2H/就 8H
測量主任技師		人	0.5	
測量技師		人	0.5	
測量技師補		人	0.5	
測量助手		人	0.5	
溶接工		人	0.5	
起重機船運転	鋼 D120t 吊	日	0.5	運 2H/就 8H
潜水土船供用	D 320PS 型 3~5t 吊	日	0.5	
トランスポンダ		日	0.5	供用 1 日当り損料 × $\alpha$
雑材料		%	2	上記の

(表5) ICT 機器損料

名称	日当たり損料(円)	機材等の内容
緊急時浮上用ポンベ	496	4L ハーネスセット
ダイバーカメラ	5,190	潜水土目線の水中作業状況の映像を潜水土船等の水上でリアルタイムに共有できる機材 1 式
水中同時通話装置	4,300	潜水土、潜水連絡員等、クレーンオペレータ等が同時に通話できる機材 1 式
トランスポンダ	80,500	作業船オペレータ等がリアルタイムに 2 次元で潜水土の位置を把握できる機材 1 式